



K.C. News

京都知福協だより

京都知的障害者福祉施設協議会

京都市上京区猪熊通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館202

<http://kyotifuku.jp>

発行人 矢野隆弘

◆ 2014年度事業実施にあたって	1
◆ 平成26年度全国知的障害関係施設長等会議に参加して	2
◆ 新規加入施設紹介	3
◆ シリーズがんばっています	4
◆ シリーズこんにちは	5
◆ 平成26年度会議・研修・行事案内	6
◆ 2013年度収支決算報告書	7
◆ 2014・2015年度 京都知的障害者福祉施設協議会組織体制	8
◆ 平成26年度広報部会部員紹介	8
◆ 広報部会より	8
◆ 京都知福協のホームページ紹介	8

あしたーる工房『丹波
なすがまることカレー』▼



2014年度事業実施にあたって

京都知的障害者福祉施設協議会

会長 矢野隆弘



去る4月24日の本会の総会において、再度会長に選任されました。2期目となりますが、もう2年会長を引き受けさせていただきます。よろしくお願いします。

現在の福祉を取り巻く環境の中で、一番の関心事は「社会福祉法人の在り方等に関する検討会」の動きです。7月4日、在り方検討会の取りまとめとなる報告書が公表されました。その中では、福祉ニーズが多様化・複雑化している中での社会福祉法人の在り方の論点整理が主な検討事項とされており、社会福祉法人のガバナンス（財務諸表の公表等による運営の透明性の確保）や公益的な活動（社会貢献）の推進が論点として上げられていることは皆さんもご承知のことと思います。

一方で、朝日新聞が毎週のように「報われない国」を連載するなど、社会福祉法人がいかに悪いことをしているというようなイメージをキャンペーンのように伝えており、社会福祉への理解や地域での活動を進めていかなければならない重要な時期に、そして、支援の担い手となる人材確保が非常に難しい時期に、まるでボディブローのように効いてくるのではないかと危惧をせざるをえません。

朝日新聞などが伝えている実態は、全国

で1万9千余りある社会福祉法人の中の数例であり、大部分の社会福祉法人の話ではありません。

そもそも、社会福祉法人は社会福祉事業という公益性の高い事業を実施することを目的とした非営利法人です。在り方検討会の報告を待たずとも、私たち社会福祉施設（事業所）は、質の高い支援の提供はもちろん、地域に向けた公益的な活動の積極的な取り組みを行うとともに、事業内容の積極的な情報開示を行うことで経営の透明性を確保することに努めなければならないのです。

今回の在り方検討委員会や政府税調の動きは、介護や保育に焦点が当てられている感がありますが、社会福祉法人改革という点では、障害関係も無縁ではありません。

今一度、社会福祉、障害者福祉の原点を鑑みながら、京都知的障害者福祉施設協議会が事業の柱としている「人権擁護と虐待防止に向けた取り組み」「障害当事者の視点に立った事業等の実施」を進めてまいりたいと思っています。

紙面の関係で多くは語れませんが、今年度重点的に取り組まなければならない課題として、①計画相談支援の推進について、②支援学校卒業後の進路として直接就労継続支援B型を利用できないことについて、③学齢期の障害児支援について（放課後等児童デイサービス事業所の課題）、④一元化されたグループホーム利用者の重度化・高齢化について、⑤福祉職員の人材確保と育成について、などがあげられます。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

平成26年度全国知的障害関係施設長等会議に参加して

社会福祉法人修光学園

修光学園 ティアコンシアセンター

センター長 森

亮

去る6月12日、13日の2日間にわたり、

日本知的障害者福祉協会が主催する全国会議が東京で開催されました。この会議は、福祉協会に加盟する全国の事業所の施設長が一堂に会する年に一度の大変大規模な会議であり、また本年は、1934年に日本精神薄弱児愛護協会として結成された福祉協会の創立80周年を迎える年ということと、これまでの80年間に渡る先人の方々の功労を讃え、祝賀ムードに包まれた中で開会されました。また、前会長である小坂孫次さんが本年度の「愛護福祉賞」を受賞され、橘文也現会長から表彰される場面は、措置から契約への移行・自立支援法の施行、改正という激動の時代を乗り越え、障害者総合支援法の施行・障害者権利条約の批准という、新たな局面を迎えている今の時代へ障害者福祉にかける熱い意志が脈々と受け継がれている事を思わせ、感動を覚えるほどでした。

▲愛護福祉賞授賞式



【行政説明】

一日目の行政説明では、厚生労働省の見聴障害福祉課長がお越しになり、直近の話題としてこの4月に見直しのあったケアホームのグループホームへの一元化、重度

訪問介護の対象拡大、障害支援区分への見直しなどについて

の説明や、国の障害福祉予算やサービスの利用に係る給付費の支給額の推移などについて要点の説明がなされました。また、現在、各種団体の代表者等を構成員とした検討会で議論が進められている事項としては、総合支援法成立時に附帯決議として示された、「障害者の高齢化・重度化・親亡き後を見据え、地域における居住の支援等の在り方について早急に検討を行うこと」について、障害者の地域生活の推進に関する検討会が平成25年7月から継続的に開催されており、その議論の経過として、地域における居住支援のための機能強化（Ⅱ多機能拠点整備型・面的整備型）の概要イメージの説明がなされました。他にも、平成27年度から29年度の三カ年を期間とする第4期障害福祉計画では、①福祉施設から地域生活への移行促進、②精神科病院から地域生活への移行促進、③地域生活支援拠点等の整備、④福祉から一般就労への移行促進、⑤障害児支援体制の整備、⑥計画相談の連携強化・研修・虐待防止、の6つが基本指針に盛り込まれる見込みであるという説明がなされ、次年度に予定されている報酬改定とあわせて、これら重要事項の今後の議論の行く末を福祉協会の会員皆で見守り、実状を伝え、同時に意見をあげていかなければならないと強く感じました。

▲行政説明（辺見課長）



【フォーラム】

行政説明の後のプログラムでは、「わが国の障害福祉施策の在り方について」安定した福祉サービスの提供に向けて」と題

して、立教大学コミュニティ福祉学部教授の平野方昭氏、社会福祉法人佛子園理事長の雄谷良成氏、社会福祉法人落穂会あさひが丘学園統括施設長の水流純大氏の3名を論者に迎え、フォーラムが開かれました。中でも平野氏は、行政マンから研究者へと

▲フォーラム



いう自身の経歴から、法制度や福祉理念と、現実とのギャップ（又は対比）が福祉業界全体の不安定さや先行き不安感を招いているという論点でお話になり、大変分かりやすく、また興味深く聞かせて下さいました。具体的には、障害者総合支援法は財政主導・自立強調型の施策である一方で、障害者権利条約の批准は合理的配慮・社会的障壁の除去といったグローバルスタンダードの流れに沿うものであるという例や、利用者の主体性の尊重や自己決定・自己選択の権利を保障するためには、利用者

と支援者との対等な立場でなければならぬ（Ⅱ対称性）という考えがある一方で、支援者の高い専門性によって非対称性が生まれてこそ専門家・職業として福祉職が成り立つのであるという例が示されました。また別の視点では、障害福祉を取り巻く混沌とした状態は2003年施行の支援費制度以来10年以上続く大きな課題となっており、地域移行・在宅支援の流れが加速する中では特に入所施設現場において自信喪失、先行き不安という結果を生み出し、今一度、施設の役割や機能を見直す必要があると論じられました。平野氏の

提案された新たな入所施設の役割の一つは、障害者版「地域包括ケアシステム」の中核に施設を据える、というものです。障害者の地域生活を支えるための地域包括ケアを高齡分野と同じような形態で整備拡充していくことは、そもそもの社会資源の数の設置状況から考えると、緊急対応や人材確保は容易ではなく、現実的には、ある程度の規模の設備と人的資源を多く持つ入所施設を中核とするシステムが有効に機能すると提言されました。

（※国は、2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムを構築することとしている）

平野氏は、フォーラムのテーマである「安定」という言葉を取り上げて、『福祉の現場が求めるのは安定性であることは間違いないが、いったい誰にとつての安定性か。報酬引き上げによって施設経営が安定すれば良いのか。』という疑問を投げかけた上で、『安定した経営とは、時代や地域の実状に応じた、且つ地域住民・利用者・従事者が望む形で安定した良質のサービスが提供でき、そしてそのサービス提供の発展の可能性が維持できることである』と締めくくられました。

協会が設立された80年前と現在の社会とは全く状況が異なるものであり、そして近未来の社会はさらに厳しいものとなることと予測されます。日本の障害福祉の分野は、先人の方々の多大な働きにより確実に前進してきたわけですが、今後も益々地域社会と我々が一体となつて共生社会の実現に向けて歩を進めなければならない、と気持ち引き締め、大変実りの多い2日間の会議となりました。

社会福祉法人 みねやま福祉会 障害者地域生活支援センターもみの木

施設長 大西 都美子

京都府京丹後市峰山町新町 2015-2

もみの木では、地域活動支援センター事業と相談支援事業を行っています。センター事業では、三障害を受け入れています。精神障害のある方が大多数です。それぞれに目的を持って日中の活動場所として利用していただいています。



修光学園ディアコニアセンター 相談サポート「まあるく」

センター長 森 亮

京都市左京区修学院冲殿町20

はじめまして！『相談サポート「まあるく」』です。

京都市左京区を中心に活動している社会福祉法人修光学園の運営する特定相談支援事業所で、ネーミングには「丸く繋がる・丸く繋げる・前に歩く」という願いを込めました。



社会福祉法人 松花苑 みずのき

施設長 沼津雅子

京都府亀岡市河原林町河原尻下五丹12

今年で55周年を迎えます。

生活介護(80名)、施設入所支援(80名)、グループホーム(3か所15名)を運営しています。高齢化、重度化、医療ケアの充実が課題の中で、利用者と共に穏やかに過ごしています。



新規加入施設紹介

有限会社 ライフ・アシスト

相談支援事業所 りあん アシストセンター えーる 児童デイ くれよん三山木

相談支援事業所 りあん 所長 井山 信久

アシストセンター えーる 管理責任者 門脇 雅章

児童デイ くれよん三山木 サービス管理責任者 宮崎 正樹
法人本部 京都府京田辺市三山木初メ3番地の9

「親亡後、どのように彼らしく生きていけるのか？」



を、会社の設立理念とし、事業を開始しました。現在は、児童に特化し、新しい福祉の形をスタッフ一丸となり、探し、構築していきます。

社会福祉法人 京都ライフサポート協会 あん'ず三山木

管理者 濱村 怜

京都府京田辺市三山木田中25-6

三山木駅徒歩2分に位置し共同生活援助事業に加え短期入所、相談支援、居宅介護事業を併設。地域の福祉サービスの拠点として運営しています。

障がいに関わり過ぎず、お一人お一人の個性を重視し、その方に合わせた支援を心がけています。



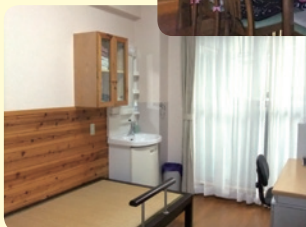
社会福祉法人 京都国際社会福祉協力会 岡崎ホーム



理事長 所 久雄

ホーム長 北川 倫子

京都府京都市左京区岡崎円勝寺町91-67



平成13年、福祉ホームとしてスタート。平成20年、共同生活援助として、継続運営し、現在に至る。定員18名、全部屋個室、2階、3階、4階の各フロアに6名ずつ生活。

13年間の生活支援は、多岐にわたる困難な面がありましたが、それぞれの局面で様々な方々に助けられ、ようやく安定してまいりました。ただ、檐を支える支援費が、日中活動の半額にも満たないところで、真の見守りができるだろうか日々疑問を感じています。



京都市ふしみ学園分室 全景



シリーズがんばっています

社会福祉法人 身体障害者福祉センター

京都市ふしみ学園

園長：寺本 眞澄



平成4年5月に50名定員で開所したふしみ学園は、当時の養護学校卒業生や近隣の作業所から異動して来られた40名と職員10名で活動を開始しました。

とても元氣な重度の利用者方で大賑わい！その後、毎年のように利用者が増え続けて、定員も55名に変更となりました。もともと授産所としてお仕事をする施設でしたが、知的に重度で重複の障がいがある利用者にとって、狭いセンターの3階で一日中過ごすのはそれはそれは忍耐が要ったことだったと思います。作業をするどころか、部屋にいることも耐えられず廊下や2階1階と居場所を求めて・・・それでも落ち着かな

京都市ふしみ学園は、京都市が伏見区の地域福祉向上にと建設した京都市伏見社会福祉総合センターの3階に位置します。1階には主に身体に障がいがある方の「デイサービス」と就労系の事業所があり、2階は伏見区社会福祉協議会、伏見区老人「デイサービスセンター」と老人福祉センターがあります。

い方は、いざ外へ！と脱出されることも日常的になっていました。

何とか、居心地のいい環境で気持ち良く過ごしてほしい・・・一人ひとりの好きなことや強みを活かした活動を提供したい・・・との思いから、平成17年2月に分室を設置するに至りました。「あおぞら」の表札を掲げて男性7名でスタートしたところ、期待以上に生き生き伸び伸びと過ごされるようになり、その後女性用の分室「ひまわり」も設置しました。

年度が変わるたびに「私も利用したい」の声は増していました。狭い借家で応えられる広さではなかったため、新たに分室を建設する運びとなりました。

建設にあたって、今まで色々と世話になった地域の方々に少しでも喜んでいただけるようにとの思いから、地域交流スペース「ひだまり」を併設し休憩や団らん、ちょっとした懇談に使用していただけるようになりました。そして「ひだまり」独自のサークル活動も開始、7月は隔週の火曜日に「筆あそび（書道）」「フ

ラワーアレンジメント」「手話で話そう」を行いました。

朝から利用者が掃除をして準備、サークルの途中ワンドリンクのおもてなしでも利用者が活躍、地域の方々との交流を深める場となっています。杉板の壁に「アトリエやつほう」の作家さんの作品を飾り、柔らかな空気が漂う中で、和気あいあいと楽しんでいただけました。おもての床机でも、「ちよっと一服」と腰をかけて休憩される姿を目にするたびに、ほのぼのとして何とも嬉しい気分になっています。

まだまだスタートしたばかりですが、地域交流が広がり、分かりあい支えあうまちとしてみんなが笑顔で過ごせるようにと願っています。

まだまだスタートしたばかりですが、地域交流が広がり、分かりあい支えあうまちとしてみんなが笑顔で過ごせるようにと願っています。



手話講座案内

手話講座案内

手話講座案内

手話講座案内

手話講座案内

手話講座案内

手話講座案内

手話講座案内

手話講座案内

手話講座案内

手話講座案内

手話講座案内

手話講座案内

手話講座案内

手話講座案内

手話講座案内

広報部員施設訪問記

社会福祉法人 よさのうみ福祉会 いきいき

訪問者：酒井紀江（るりかい寮）



今回は天橋立の近くにあり、まず障害福祉センター夢織りの郷「いきいき」を訪ねさせていただきました。当日は施設長の山口高志さんにお話を伺い、生活の場や日中活動の場を案内していただきました。

まず施設内の案内をしていただきました。玄関直ぐ横にはハートホールという体育館の様な広い場所があり、開放的な扉の外には民家や老人施設が建ち並び、緑も広がり豊かな街並みの風景が広がっていました。施設の周囲には膝の高さほどの垣根があるのみで、誰でも出入りが出来るようになっていました。近所の方がお散歩に連れられたり、施設内で行われる夏祭りに踊る「岩屋おどり」を地域の方がホールに来られて一緒に練習されたりと、地域とのつながりが日常的にありました。2年に一度は地域の方や隣接する老人施設と一緒に、まつりも開催されることでした。

居室は全個室で現在は31名の方がここで生活していました。居室はそれぞれ大きな窓があり中庭に自由に出入出来るようにもなっていたり、自分の好きな様に飾っておられたり、自分だけのスペースを楽しく使われていると感じました。食事は準備が出来れば「ごはん出来たよ」と声を掛けられるのみで、自分の好きな時間に食堂へ行き食事をされていました。また、個人に合わせてふりかけや納豆等の嗜好品も準備されていました。就寝は22時と決められてはいますが、皆が集うお部屋で好きな時間までテレビを観ている方や居室で好きな事をし過ぎて過ごしておられる方等、時間に縛られず充実した生活をされていました。このようにお一人ひとりが自分のペースで心地よく快適に過ごす事が出来る様に、自由な時間設定を大切に支援されています。

した。お風呂は毎日入っておられ、個人で好きなシャampooや石鹸を買って置かれており、女子の浴室には車椅子でも入れるように環境が整えられていました。次に日中活動の場を見学させていただきました。9時半になるとハートホールに、入所されている方や通所されている方が集まれ、朝の歌とラジオ体操を行い、朝礼が始まりました。一日の予定やお昼の献立等を皆に伝えられ、施設長の山口さんのギター演奏に合わせて歌の練習が始まりました。2曲歌われましたが、大きな声で歌われている方や歌に合わせてリズムを取られている方々等、お一人おひとり違う表現の仕方を楽しみながら歌の練習に参加されていました。このラジオ体操と歌は毎日欠かさず取り組まれ、特に歌には力を入れておられました。毎年の地域の音楽会に出て、過去には京都大会や全国大会に出場されたこともあるとの事でした。

朝の朝礼が終わると、それぞれ作業の場に移動され、仕事に取り掛かれました。入所のいきいきの方は、いちご、マックス、すみれの3班があり、いちご班は14人おられ、ストローグループとベリールグループに分かれ屋外での作業（段ボールの積み込みや積み下ろし作業）と屋内での作業（牛乳パックをはさみで切つて広げて資源にする作業）をされています。マックス班ではお弁当箱の下請け作業やペットボトルの回収作業、しいたけ栽培もされているとの事でした。すみれ班では高齢の方が多い為、バイタルチェックから始まり、いきいきで生活されている方の洗濯物を畳む仕事をされていました。通所のつむぎの方は、わかば、もみじ、にこにこ、スマップル、ひまわりの5班に分かれて仕事をされています。皆さんにはとても丁寧に仕事の内容を説明して頂き、日々頑張っておられる

のが伝わってきました。ひまわり班ではケーキを作って施設の一角で週に一度、喫茶コーナーを開かれており、いきいきの方々が利用されているとのことでした。体が思う様に動かない方にも、仕事が出来る様に色々と工夫をされています。

夢織りの郷では、入所の方も通所の方も全ての利用者さんにお給料が支払われていました。障害があっても働いてお金を稼ぐということで、本人には社会とのつながりを持つてもらい、社会の一員であることを自覚してもらう、保護者の方にとつては家族の一員であることを実感できる瞬間でもある、という山口さんや支援員の方のお言葉が、大変心に残りました。入所施設では時間に縛られた生活にながちですが、こちらの施設では利用者さんの状況や希望を踏まえた上での自由な時間設定を大切にされており、利用者の方は皆、施設の名前通り「いきいき」と生活をされているのが伝わってきました。

最後になりましたが、お忙しい中、丁寧に説明や案内をして下さった山口さん、取材にご協力いただきました利用者さん及び支援員の皆様、本当にありがとうございました。



平成26年度 会議・研修・行事案内

4月

京都知福協研修委員会
4月8日
第1回正副会長会議
4月15日
2014年度総会
4月24日

5月

近畿地区総会
5月8日 開催地:和歌山
京都知福協第1回研修委員会
5月13日

6月

京都知福協第1回役員会
6月9日
全国施設長等会議
6月12日・13日 開催地:東京
京都知福協第1回広報部会
6月20日

7月

京都知福協第2回役員会
7月14日
全国グループホーム等研修会
7月24日・25日 開催地:兵庫
京都知福協地域支援部会
7月31日

8月

京都知福協第2回広報部会
8月1日
京都知福協第3回役員会
8月21日
近畿地区第2回役員会
8月28日

9月

全国職員研修大会
9月3日～5日 開催地:青森
日中活動支援部会施設長等研究会議
9月16日・17日 開催地:千葉
京都知福協
児童発達支援部会・相談支援部会
9月18日
地域支援セミナー
9月29日・30日 開催地:神奈川

10月

京都知福協幼児のつどい
10月2日 島津アリーナ京都(京都府立体育館)
京都府知的障害者福祉施設職員研修
10月4日 開催地:京都 こどもみらい館
全国生産活動・就労支援部会職員研修会
10月6日～8日 開催地:東京
全国会長・事務局長会議
10月23日・24日 開催地:東京
京都知福協生産活動・就労支援部会
期日:調整

11月

全国知的障害児発達支援施設運営協議会
11月6日・7日 開催地:愛知
京都知福協施設長会議
11月12日 こどもみらい館
京都知福協地域支援部会研修会
11月14日 京都社会福祉会館
京都知福協障害者支援施設部会研修会
11月15日 京都社会福祉会館
全国日中活動支援部会職員研修会
11月27日・28日 開催地:石川
京都知福協第4回役員会
11月下旬(予定)
近畿地区第3回役員会
期日:調整

12月

近畿地区施設長会議
12月2日・3日
開催地:京都 京都ガーデンパレス

1月

ミニコンサートの集い
1月20日 京都府立文化芸術会館
障害者支援施設部会全国大会
1月29日・30日 開催地:広島
相談支援・就業支援セミナー
1月29日・30日 開催地:千葉
京都知福協第5回役員会
1月下旬(予定)

2月

近畿地区知的障害関係職員研修会
2月12日・13日 開催地:大阪

3月

近畿・日本知福協部会協議会
3月3日・4日
京都知福協第6回役員会
3月上旬(予定)
近畿地区第4回役員会
期日:調整

現在調整中の行事

福祉フォーラム
風せんバレーボール大会

2013年度

(2014年3月31日現在)

収支決算書

京都知的障害者福祉施設協議会

収入合計	10,932,175
支出合計	9,240,661
差引残額	1,691,514

(残額は次年度へ繰越)

◆収入の部

(単位：円)

大区分	中区分	予算額	決算額	比較増減	摘要(積算内訳)
会費収入		8,460,000	8,486,050	26,050	
	1. 京都知福協会会費収入	5,300,000	5,346,050	46,050	近畿知福協会会費 京都 5,158,050 近畿 188,000
	2. 日本知福協会会費収入	3,160,000	3,140,000	△ 20,000	
補助金収入		112,000	106,200	△ 5,800	
	1. 京都府補助金収入	1,000	0	△ 1,000	
	2. 京都市補助金収入	1,000	0	△ 1,000	
	3. 日本知福協補助金収入	110,000	106,200	△ 3,800	地方会助成
寄付金収入		350,000	428,200	78,200	
	1. 寄付金収入	350,000	428,200	78,200	きょうと福祉互助会・JICウエスト協賛金
雑収入		101,100	43,214	△ 57,886	
	1. 雑収入	1,000	1,050	50	預金利息・幹旋手数料
	2. 研修参加費収入	100,000	42,000	△ 58,000	福祉フォーラム
	3. 事業振興基金利息収入	100	164	64	
繰越金		1,868,511	1,868,511	0	
	1. 繰越金	1,868,511	1,868,511	0	
収入合計		10,891,611	10,932,175	40,564	

◆支出の部

(単位：円)

大区分	中区分	予算額	決算額	比較増減	摘要(積算内訳)
分担金		3,660,000	3,619,400	△ 40,600	
	1. 日本知福協会会費支出	3,160,000	3,140,000	△ 20,000	事務局経由分
	2. 近畿地区知福協会会費支出	200,000	188,000	△ 12,000	@ 2,000 × 94
	3. 府市施設協議会分担金支出	300,000	291,400	△ 8,600	府施設協 220,000 市施連協 71,400
	4. 京都府精神保健福祉協会会費支出	0	0	0	
事務局費		4,500,000	4,367,127	△ 132,873	
	1. 職員雇用費	2,200,000	2,200,000	0	
	2. 役務費	250,000	173,134	△ 76,866	郵送料、振込手数料、電話代
	3. 需用費	350,000	408,937	58,937	事務用品、印刷代、ホームページ作成費等
	4. 備品費	100,000	71,920	△ 28,080	会計ソフト
	5. 旅費	350,000	286,540	△ 63,460	部会協議会、関係団体等会議出席、事務局等旅費
	6. 会議費	700,000	644,086	△ 55,914	施設長会議開催費用、役員旅費、役員会会場費等
	7. 慶弔費	20,000	40,000	20,000	
	8. 雑費	50,000	62,510	12,510	支援機構会費 10,000 他
	9. 賃借料	480,000	480,000	0	
部会活動費		900,000	855,564	△ 44,436	
	1. 広報部会活動費	600,000	546,967	△ 53,033	「知福協だより」等
	2. 行事・文化部会活動費	300,000	308,597	8,597	幼児のつどい、風船バレー大会、ミニコンサート
委員会費		500,000	285,638	△ 214,362	
	1. 研修委員会費	300,000	199,698	△ 100,302	福祉フォーラム等
	2. 政策委員会費	100,000	77,780	△ 22,220	身体拘束に関するアンケート等
	3. 人権・倫理委員会費	100,000	8,160	△ 91,840	
種別部会費		240,000	112,932	△ 127,068	
	1. 児童発達支援部会費	40,000	0	△ 40,000	
	2. 障害者支援施設部会費	40,000	22,402	△ 17,598	部会研修会
	3. 日中活動支援部会費	40,000	25,040	△ 14,960	部会研修会
	4. 生産活動・就労支援部会費	40,000	32,280	△ 7,720	実践報告会
	5. 地域支援部会費	40,000	33,210	△ 6,790	部会研修会
	6. 相談支援部会費	40,000	0	△ 40,000	
積立金支出		0	0	0	
	1. 事業振興基金積立金支出		0	0	
予備費		1,091,611	0	△ 1,091,611	
支出合計		10,891,611	9,240,661	△ 1,650,950	

事業振興基金	1,094,609
--------	-----------

2014・2015年度京都知的障害者 福祉施設協議会組織体制

〈会長〉

矢野 隆弘 (かしのき)

〈副会長〉

塩見 正人 (あまだ翠光園)
樋口 幸雄 (横手通り43番地「庵」)
中西 昌哉 (ベテスタの家)
寺本 眞澄 (京都市ふしみ学園)

〈地域連絡会〉

京都府連絡会代表 矢野 隆弘 (かしのき)
京都市連絡会代表 中西 昌哉 (ベテスタの家)

〈特別委員会〉

政策委員会

委員長 樋口 幸雄 (横手通り43番地「庵」)

研修委員会

委員長 平田 義 (空の鳥幼児園)

人権・倫理委員会

委員長 中西 昌哉 (ベテスタの家)

〈事業部会〉

行事・文化部会

部会長 濱田 康寛 (障害者支援施設みずなぎ学園)

広報部会

部会長 政田美由紀 (京都市やましな学園)

〈児童発達支援部会〉

(障害児入所支援 障害児通所支援)

部会長 渋谷 千鶴 (むくの木園)
副部会長 脇田 宣 (白川学園)

〈障害者支援施設部会〉

(障害者支援施設)

部会長 廣幡 顕一 (京北やまぐにの郷)
副部会長 山代 浩史 (障害者支援施設 凜)

〈日中活動支援部会〉

(生活介護、療養介護、自立訓練、地域活動支援センター)

部会長 三宅 州人 (障害者地域活動センター乙訓楽苑)
副部会長 辻村 憲隆 (城陽作業所)

〈生産活動・就労支援部会〉

(就労継続支援B型、就労継続支援A型、就労移行支援)

部会長 加藤 正樹 (テンダーハウス)
副部会長 笠嶋 純教 (志津川福祉の園)

〈地域支援部会〉

(共同生活援助、自立訓練(宿泊型)、福祉ホーム、居宅介護、重度訪問介護、行動援護、移動支援)

部会長 森 亮 (修光学園ディアコニアセンター)
副部会長 寺阪 和博 (あしたー工房)
副部会長 中西 昌哉 (ベテスタの家)

〈相談支援部会〉

(相談支援事業、就業・生活支援センター、重度障害者包括支援)

部会長 須河 浩一 (相談支援センターいづみ)
副部会長 松井 芳子 (相談支援まきしまてくてく)

〈監事〉

益川 正博 (かしの木学園)
平田 捷郎 (障害者支援施設あんびしゃ)

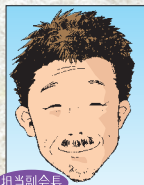
〈従事者代表〈支援スタッフ委員会(仮称)〉

瀧井 孝浩 (かしのき)

〈事務局〉

田中 里枝

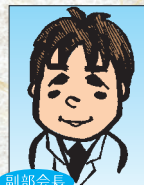
平成26年度 京都知福協広報部会 部員紹介



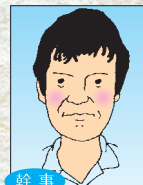
担当副会長
中西 昌哉
ベテスタの家



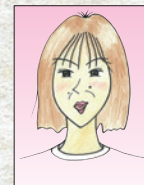
部会長
政田 美由紀
京都市やましな学園



副部会長
森 亮
修光学園ディアコニアセンター



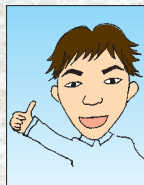
幹事
奥村 研也
あけぼの学園のりけい寮



酒井 紀江
あけぼの学園のりけい寮



石田 知子
あしたー工房



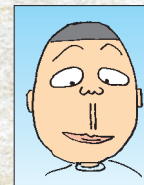
岩堀 友計
あまだ翠光園



岡本 直樹
宇治川福祉の園



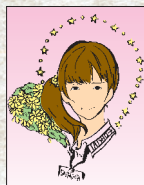
梶原 泰司
きぎょうの杜



川端 良勇
京都市大原野の杜



中川 久美子
修光学園



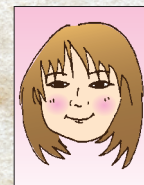
城下 結季代
大照学園 児童部



西村 文孝
テンダーハウス



向井 純一
花ノ木医療福祉センター



天野 真弓
ひなとり学園

京都知福協の ホームページをご活用ください!

<http://kyotifuku.jp> 又は 京都知福協 で検索



京都知福協のホームページには、組織や会員施設の紹介、関連リンク、広報誌「K.C.News」デジタル版の他、会員向けの情報として研修会等の案内や各種資料類が掲載されています。

情報は随時更新していきますので、ぜひご活用ください。

※会員専用ページはIDとパスワードが必要になります。不明の場合はお問い合わせください。

編集後記

ごしてまいりましたが、いまだに慣れず四苦八苦しております。その間いくつもの事業所を異動し色々な利用者・支援職員と関わってまいりました。思えば自分なりに一杯支援に従事してまいりましたが、上手いかずご迷惑をかけていたなと思うこと時々。それでも久々に会った人に「あの時はありがと」「また一緒にしたい」と言われるとホッと、良い「絆」も築けていたのだなと。

「絆」と言えば3年前事業所のご協力で震災支援に行くことができた。全国から復興のために駆け付けたのです。まったく知らない方々と瓦礫財産処理、事業所の立て直しに協力させていただき色々力を出し合ったものです。「絆」という言葉をモットーの一つになって取り組ませていただきました。支援期間が終わり、帰路に着く際に「また会いたいね」「今度一緒に飲みましょう」と別れましたが、7月上旬に「あれから3年。今度飲みましょう」とメールが届きました。毎年1回メールの交換をするのですが、叶うはずのない約束をいつもしています。わずかに一週間の間でしたが一緒に支援をした仲間として良い「絆」ができています。

日々過ごしていると色々な方と出会い、別れていきます。遠く離れた友、連絡が途絶えていた人に、連絡してみてはいかがですか? また新たな「絆」が生まれてくることだと思います。(京都市大原野の杜 川端)

広報部会より 記事募集

写真・記事などのご応募をお待ちしています。



TEL.075-591-8841

FAX.075-591-8842

京都市やましな学園 政田まで

※配布部数の変更がございましたらお知らせ下さい。